

分科会3

IMR2018 ～ いまから みんなで リカバリー～

(IMR=Illness Management and Recovery: 疾病管理とリカバリー)

- 出演者： 藤田英美（横浜市大病院心理室）
中村正子（鷹岡病院）
岸貴雅、齊藤祥子（藤沢病院）
永瀬誠、塚田尚子、内山繁樹（横浜市生活支援センター西）
渡辺厚彦（横浜市大センター病院心理室）
加藤大慈（戸塚西口りんどうクリニック）
長谷川さんほか IMR 利用者の方々
- 司会： 吉見明香（横浜市大病院精神科）

Illness Management and Recovery（IMR：疾病管理とリカバリー）は、リカバリーにとっても有用なプログラムです。

IMRは、アメリカ連邦政府によるEBP（Evidence-Based Practices）実施・普及ツールキットシリーズのひとつで、ACTや家族心理教育、援助付き雇用とともに、科学的根拠にもとづいた実践とされています。日本では、2009年に日本精神障害者リハビリテーション学会から発刊され、全国各地で普及が進んでいます。

この分科会ではIMRの概説のほか、IMRを実践している施設から、IMRがリカバリーにどう役立ったか、また率直な感想や体験談を当事者と実践者がお話しし、各自のリカバリーの歩みなども熱く語られました。

最後にIMR分科会の10年を振り返り、10年経った今も、当事者にも実践者にもIMRが役立っていることを確認できました。

● 「IMRの概要」 藤田英美

IMRの理念や大切にしている事柄、教材の具体的な内容や実践方法など、IMRの概要がわかりやすく説明されました。

● 「IMRを病棟でやっています～経験者からのメッセージ」 藤沢病院の皆さん

藤沢病院では入院患者さんを対象に病棟でIMRが行なわれていますが、スタッフから病棟でIMRを実践してみた実感として、目標志向性であることの楽しさや仲間が増えたことなどが語られました。

またIMRを利用した方から、当時と現在のリカバリー目標などについてお話しされましたが、会場から質問した方に、その人がリカバリーできることを力強く断言していたのが印象的でした。

● 「IMRを地域の生活支援センターでもやっています」 横浜市生活支援センター西の皆さん

地域場でIMRを始めて6期目となり、ここ数年は毎年分科会で発表していますが、今年も西からはスタッフと当事者が混在して20名くらい登壇されました。

こんな生活をしていきたい、こんなことができるようになりたい…とか、それぞれのリカバリーに関連した取

り組みやいま頑張っていることなど、メンバーとスタッフがインタビュー形式で発表しました。

● 「私たちのリカバリー」 鷹岡病院の皆さん

鷹岡病院デイケアでは、2010年4月よりIMRに取り組んでいます。

IMR卒業生で、現在就労している方も10名以上います。

今回、4名の就労している利用者から、現在の生活、IMRを学ぶ前の生活、IMRで学んだことが現在の生活にどのように役立っているかなどが語られました。

● 「これまでの10年、これからの10年」 長谷川さん、加藤大慈、鷹岡病院のIMR利用者、中村正子

今回でIMR分科会も10年を迎えました。

分科会の10年を振り返りつつ、はじめの頃のIMR参加メンバーから、これまでのご自身の歩みや未来について語られました。

10年前には予想できなかった素敵な現在となっていると同時に、一貫しているものがあるようでした。

いまもリカバリー中ですが、そのなかでIMRも何かのきっかけの1つになっていたことを確認しました。

● 会場との意見交換 渡辺厚彦ほか発表した方々

自分の施設や病院でIMRを実践するための具体的な質問や、ご家族の立場からのエール、当事者の立場からの貴重な感想など、会場から時間の許す限り発言していただき、意見交換ができました。

当日のアンケート（68人から回答）の結果からは、例年通り、当事者からの発表がとても好評でした。

《企画委員：中村亮太、加藤大慈》

